

2014年10月1日
44号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 磯日立製作所ひたちなか総合病院
〒312-0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029(354)5111
発行人 飯嶋和秀
編集 広報委員会
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>

【ひたちなか総合病院理念】

「地域を護る病院」として説明責任を基本とした最新の技術とサービスを提供し患者さんが納得・満足される医療を遂行する

【ひたちなか総合病院基本方針】

「地域の皆さまの信頼と満足が私たちの生きがいです」のもとに、①急性期から回復期までの一貫した医療を充実させて地域完結型医療を推進する②教育・研修を充実させて最新の医療技術を確認し、職員満足を向上する③説明責任と最良のサービスを遂行し、患者満足を向上する④質を基盤とした総合的医療の質経営を実施し、持続成長可能な病院にする を実践する。

【2014年度品質目標】

- ・マクロ・メゾ・ミクロ構造に基づきMy PDCAを回す・医療のTQMツールを利用してTQC活動を活性化する・データセンタ（アンサンプル・キャシエ）を活用する・業務支援管理を含め医療・看護のスマトラを推進する・教育・研修センタを充実しがん診療連携拠点病院の認可を得る・地域IT連携により在宅医療と後方支援病院連携を推進する
- ・持続成長可能な病院運営をする

ごあいさつ



院長 永井 庸次

本年もはや10月を迎え残すところ3ヶ月となりました。集中豪雨等今年は異常気象が続きましたが、皆様方におかれましてはいかがお過ごしでしたでしょうか。当院もリニューアル移転後4年を経過し、次の中長期計画等を検討する時期に来

ているのではないかと考えている次第です。

本年は循環器の医師が増えたことから、心筋梗塞、狭心症等の循環器疾患に対する対応が救急対応を含めて今まで以上に進歩し、皆様方にはご満足いただけているのではないかと考えております。外科系もより難しい手術や患者さんの負担の少ない内視鏡手術の件数増が顕著です。また、放射線治療の専門性充実、消化器内科の医師増による手術によらない内視鏡による治療件数増、リウマチや神経内科、呼吸器内科等の専門分野の充実を鑑みますと、従来の内科そのものは存続し初期臨床研修や救急・総合診療科的な対応を行うとともに、内科の専門診療科への分化もさらに進めていきたいと思っています。前者の方向として、9月からがん精密検査に対応したがん二次検診外来を開始しましたが、後者の方向性としては、従来はリウマチ・膠原病センターしかありませんでしたが、心臓血管センターを10月に立ち上げるとともに、内科にかかりたいということではなく、内科の中の〇〇専門科にかかりたいという体制を構築していきます。

本年は医療界でも種々の法律が、中でも医療介護総合確保推進法が成立し、第6次医療法の改正となりました。その一環として10月には医療機関がその有する病床において担っている医療機能の現状と今後の方向を選択し、病棟単位で都道府県に報告するという病床機能報告制度が導入されます。当院では、

ICU、HCUを高度急性期機能、3階を除くその他の病棟を急性期機能、3階を回復期機能として届出予定です。医療機関がその機能を行政に届出する一方、行政はレセプト等からの各医療機関の医療実績を把握しており、その結果、今後より効率的・効果的な病床運営を実施できるようになると思われま。しかし、二次医療圏レベルでの話となると、現在でも半数前後の患者さんが外来・入院とも水戸にかかっている現状で、現在のこの地域の当院を含めた医療機関の病床機能がそのまま固定された場合、当地域の医療機能の今後の選択肢に何らかの制限が加わる可能性もあります。私はそのことを危惧し、医療過疎地域なりの病床数の拡大を至急計画する必要があると考えております。

先月も国の方々が来院され、災害拠点病院の在り方のヒアリングを受けました。その時、当院は災害拠点病院で大災害時には地域を護ることが使命ですので、患者さんの処方薬を維持する必要があります。しかし、患者さんの半数近くが水戸に通院されている現状でそれを本当に守れるのですかと質問を受けました。お薬手帳さえあれば薬剤提供は可能ですが、なければどうなるのでしょうか。その意味で、9月から当院では当院の外来・入院患者さんの薬剤と血液検査の検査については、同意が得られた患者さんのみ、かかりつけの保険薬局でもその情報が見え与薬ミスをなくすような薬業連携（ひたちなか健康ITネット）を開始いたしました。将来的には開業の先生方、水戸・東海の病院とのIT連携を考えておりますので、是非ご協力頂きたいと思っております。

最後に、先の医療介護総合確保推進法の成立を踏まえて、何よりも必要なことは当院を含め医療関係者と行政と皆様方との密なる情報交換と連携です。この2～3年の間、医療・介護の提供体制は来たるべき2025年（私を含む団塊世代がすべて75歳以上の後期高齢者となる）に向けて大幅に変化いたします。その中で、是非皆様方を中心にこの地域の医療・介護体制が格段に進歩することを祈念いたしまして、今回のかけはしを終えたいと思います。今後共、是非当院をご支援頂きたい、宜しくお願いいたします。

ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

10月	日	月	火	水	木	金	土	11月	日	月	火	水	木	金	土	12月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	④								①								
10	⑤	6	7	8	9	10	⑪	11	⑫	⑬	4	5	6	7	⑧	12	⑦	8	9	10	11	12	⑬
月	⑫	⑬	14	15	16	17	⑱	月	⑨	10	11	12	13	14	⑮	月	⑭	15	16	17	18	19	⑳
	⑲	20	21	22	23	24	⑳		⑰	17	18	19	20	21	㉒		㉑	22	㉓	24	25	26	㉔
	㉖	27	28	29	30	31			㉗	㉘	㉙	㉚	27	28	㉜		㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日

ひたちなか健康ITネット開始

当院では、2011年3月に発生した東日本大震災被災、当院の事業継続計画（BCP）の策定、今後の健診・医療・在宅・介護等の施設間情報連携、病院と保険薬局との情報連携などを目的とし、ひたちなか健康ITネットの構築を進めてまいりましたが、この度保険薬局との診療情報連携を開始いたしました。

薬剤の事故は全国的に多数認められており、これを予防する対策として、薬剤情報だけではなく血液検査などの検査情報と薬剤情報をリンクした形での病院と保険薬局との情報交換が有用という報告がされております。当院でも地域ITネットワークの第一弾として、保険薬局への薬剤及び検査情報の交換を実施いたしました。

具体的には、皆様方の当院処方（内服・注射）のほか、血液検査結果に関してのみ保険薬局に情報を提供して、与薬ミスを防止するというものです。当院でも処方鑑査などで皆様方の処方薬剤の安全性・妥当性をチェックしております。今回はさらに保険薬局の薬剤師の目でダブルに検査結果と合わせて確認することで、例えば、腎機能の良くない患者さんに腎機能をさらに悪化させるような薬剤が処方されるようなことがないようにチェックできるといったような利点が生まれます。

皆様方の薬剤、検査結果などの個人情報、決して外部に漏出することがないセキュリティーを設定し情報交換をいたします。また、皆様方と個別に当院、並びにご利用の保険薬局との同意を得ることを考えており、当院・保険薬局とも守秘義務・プライバシー保護などの契約を締結いたしました。

ひたちなか健康ITネットを利用し、患者さんの診療情報を開示することに同意いただけない場合は、スタッフへお申し出下さい。また、ひたちなか健康ITネットの利用できる施設（保険薬局）は全てが対象ではありませんので、お薬を受け取りの際にご確認ください。サービス開始にあたり、ご不明な点やご質問がございましたら、遠慮なく当院スタッフへお声掛けください。

第10回常陸リウマチ治療研究会 市民公開講座 お気軽にご参加ください

日時：10月25日（土）14：00～16：00

会場：(株)日立製作所ひたちなか総合病院 2階講堂

第1部：特別講演『最新のリウマチ治療』

東京女子医科大学附属

膠原病リウマチ痛風センター

整形外科 教授 桃原 茂樹先生

第2部：医療相談会

常陸リウマチ研究会会員医師が中心となり医療相談会を行います。

参加費：無料

お問い合わせ：田辺三菱製薬株式会社 水戸営業所

電話029-305-3655

疲れ目を予防し、目の健康づくりを

総合健診センター保健師 青木 章子

目は外からの情報を得るための大切な器官ですが、近年、パソコンやスマートフォンなどの画面を長時間見続けて、目の疲れを感じる人が多くなってきています。また、加齢とともに白内障や緑内障、加齢黄斑変性などの目の病気にかかる人も増えています。

10月10日は「目の愛護デー」です。この機会に、目をいたわり、目の病気の原因となる疲労をためないように生活を心がけましょう。

疲れ目は、主に「目の使いすぎ」がきっかけになって起こります。目からの注意信号（目の疲れ、乾いている感じ、かすみ、目やに、視力の低下、見えにくい、肩がこりやすい等）にご用心！

◆目の健康維持のために

1. 目を休ませる

モニターを見ながらの作業や読書などを1時間続けたら10分間休憩するなど、こまめに目を休ませる時間を持ちましょう。少しの時間でもまぶたを閉じて光を遮ったり、まばたきをゆっくりと繰り返して目のストレッチを行ったりするのもよいでしょう。

2. 目にやさしい食事をする

バランスのよい食生活はもちろん、目の健康維持に必要なとされる栄養素を含む食材をしっかりとりましょう。（ポリフェノールの1種であるアントシアニンを豊富に含むブルーベリーなどのベリー類、ルテインを含むほうれん草などの緑黄色野菜、不飽和脂肪酸のDHA（ドコサヘキサエン酸）を豊富に含む青魚やまぐろ、かつおなど）

3. 眼科検診を受ける

目に何らかの異常を感じたときや症状が改善しないときには、早めに眼科を受診してください。

また、当院の人間ドックには、視力・眼圧・眼底検査が含まれております。年に一度は、生活習慣病・がんの予防・早期発見と合わせて、人間ドックを受けることをお勧めします。

医師異動の紹介

診療科	氏名	異動日
内科	黒田 章博	採用 (2014. 7. 1)
形成外科	原 裕太	転勤 (2014. 10. 1) (日病)
リウマチ膠原病センタ	柳下 瑞希	退職 (2014. 9. 30)
臨床研修医	菊池 直哉	退職 (2014. 7. 31)
	任 瑞	退職 (2014. 9. 30)
	蔵本 健矢	退職 (2014. 9. 30)
	奥 脇 一	退職 (2014. 9. 30)
	鈴木 一史	退職 (2014. 9. 30)
	大島 央之	採用 (2014. 10. 1)
	松村 裕	採用 (2014. 10. 1)
	施 恵子	採用 (2014. 10. 1)
	織内 直毅	採用 (2014. 10. 1)
	宮崎 峻弘	採用 (2014. 10. 1)
	古谷 翼	採用 (2014. 10. 1)
海野 麻実	採用 (2014. 10. 1)	